HITACHI
Inspire the Next

Company Profile

Hitachi Building Systems

「人・ビル・社会」に新たな価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。

株式会社日立製作所 執行役常務
ビルシステムビジネスユニットCEO
兼 株式会社日立ビルシステム
代表取締役 取締役社長
網谷 憲晴
Noriharu Amiya

● ビルシステム事業概要（日立グループ連結）

売上収益
9,217億円*1

保全台数
約100万台超*2

従業員数
約40,000人*2

累計納入台数
185万台超*2

事業拠点数
2,000拠点超*2

*1 2024年3月期
*2 2024年3月時点

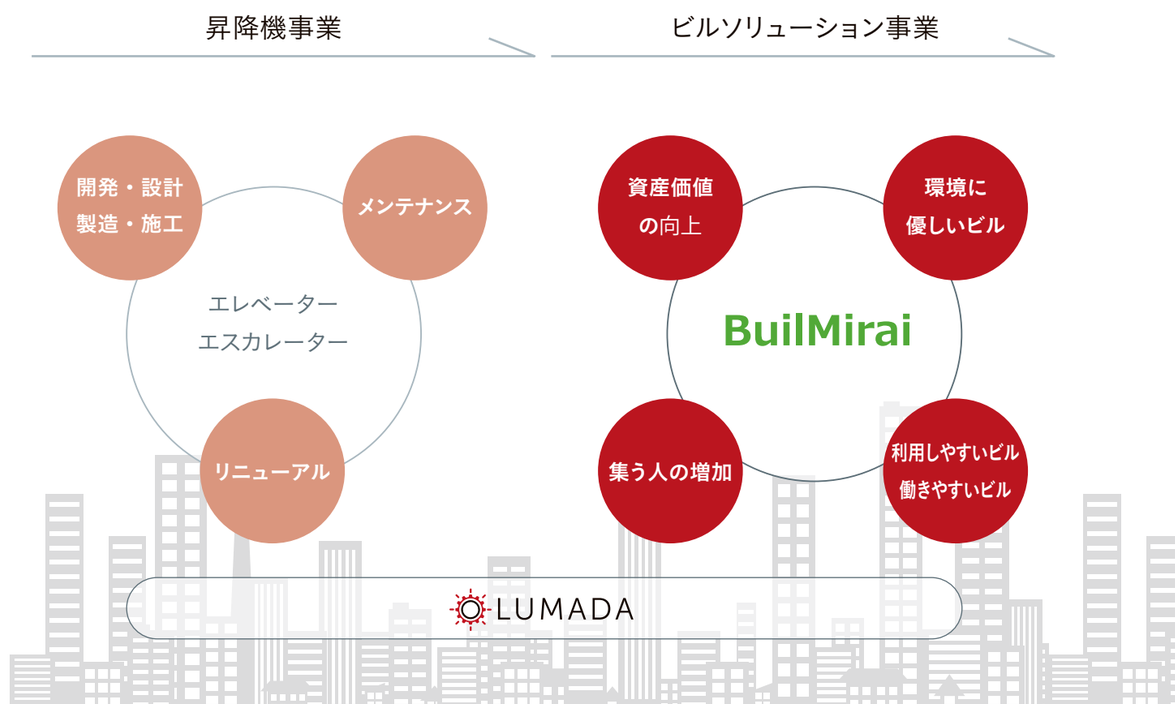
私たちは、1920年代にエレベーターの研究開発に着手して以来、日立グループの一員として高品質な昇降機（エレベーター、エスカレーター）、さらには空調機器をはじめとするビル設備や、ビルソリューションなど、ビルを支える製品・サービスを提供し、安全・安心・快適な社会づくりに取り組んでまいりました。

近年、原材料価格、エネルギー価格の上昇や、人件費高騰・人手不足など、激変する社会情勢や、地球温暖化に伴う気候変動などを背景として、さまざまな社会課題やニーズが生まれています。ビル関連分野においても、オフィス需要の変化に伴うビルの新たな価値創出や、ビル管理業務の効率化、災害に対するレジリエンスの強化、カーボンニュートラルの実現に向けたZEB（Net Zero Energy Building）化をはじめとするグリーン（環境対応）などへの関心が大きく高まっています。

私たちは、100万台超の昇降機をはじめとするビル設備に対し、2,000拠点超の事業拠点をベースに、IoTやAIなどのデジタル技術を活用したメンテナンスサービスをグローバルに提供し続けており、その強みを生かしたLumada*のソリューション提供を通じて、ビル全体のグリーン化、スマート化に貢献してまいります。ビルIoTソリューション「BuilMirai（ビルミライ）」をグリーン&スマートビルの中核となるプラットフォームとして提供し、そこにさまざまなビル設備・システムをつなぎ、データの一元的な管理、分析、制御を行えるようにすることで、ビル管理業務の効率化や、運営品質の維持・向上、利用者の快適性の向上を実現します。今後は、大規模ビル向けの「BuilMirai」の開発・提供で培った技術や経験・ノウハウを踏まえ、中小規模ビル向けのソリューションを展開し、あらゆる規模や用途のビルのGX（Green Transformation）/DX（Digital Transformation）のニーズに応えてまいります。

これからも私たちは、デジタル・グリーン・コネクティブを変革のドライバーとして、社会イノベーション事業の拡大を図り、持続可能な社会、ウェルビーイングの実現に貢献していきます。

＊ Lumada（ルマーダ）：お客さまのデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための、日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション、サービス、テクノロジーの総称。



撮影協力:SHIBUYA SKY

新たな都市に、最先端の技術で価値を提供する

渋谷エリア最高峰のランドマークに未体験の移動環境を。

渋谷スクランブルスクエア

新しい文化に出会い、世界に発信する「国際観光文化都市」をめざして、大きく変わろうとしている街・渋谷。ひときわ目を引く地上高約230mの大規模複合施設が「渋谷スクランブルスクエア」です。渋谷エリアで最高峰を誇る地上47階、地下7階建ての新たなランドマークは、多彩な施設やオフィスで構成され、日本で最大級の屋上展望空間を有する展望施設「SHIBUYA SKY(渋谷スカイ)」は、非日常的な空間演出と、圧巻のパノラマビューで、大きな注目を集めています。

私たちは、屋外型として日本一の高さ*に位置するエスカレーターなど、「SHIBUYA SKY」内のすべてのエレベーター・エスカレーターをはじめ、商業施設、オフィスなどに76台の昇降機を納入し、展望施設における今までにない体験、ビル内そして渋谷エリアの安全・安心・快適な移動環境を支えています。

世界最高速エレベーター*を生み出した最高水準の技術力

超高層複合ビル「広州周大福金融中心」(中国・広州)

地上1階から95階のホテルロビーまで440mを約42秒で移動。空気抵抗やレールのわずかな段差による振動、騒音などのさまざまな問題を解決し、日立の先進技術と豊富な経験・ノウハウを結集して、分速1,260mの世界最高速エレベーター*を実現しました。

広州周大福金融中心

先進のデザインとレジリエンス・デジタル機能を、より多くの建物へ

標準型エレベーター「アーバンエース HF Plus」

標準型エレベーター「アーバンエース HF(エイチエフ)」の新シリーズとして、意匠デザインのバリエーション、災害に対するレジリエンス、利用者に安全・安心・快適を提供するデジタル機能、昇降行程・積載質量を強化(プラス)した「アーバンエース HF Plus(エイチエフ プラス)」を開発しました。世界的なプロダクトデザイナーである深澤直人氏監修によるシンプルで上質なデザインが高く評価されています。

高品質を支える最先端の研究・開発・設計・製造拠点

水戸事業所(茨城)
大石工場(中国・広州)

長年にわたり、日立の昇降機の研究・開発・設計・製造を支えている水戸事業所。地上高213.5mのエレベーター研究塔「G1 TOWER(ジーワンタワー)」を有し、世界最高速エレベーター*を開発するなど、最先端のモノづくりをけん引しています。製品の設計から試作・評価、加工・組立、検査までを高い精度で行い、お客さまの信頼にお応えします。また、中国などの海外拠点と連携し、グローバル市場の多様なニーズにも対応しています。2020年1月には、中国・広州市にある大石工場に、世界トップクラスの高さ*となる地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER(エイチワンタワー)」を建設し、研究・開発体制をさらに強化しました。今後も、水戸事業所と大石工場をはじめとする研究・開発・設計・製造拠点を中心に、技術・製品のイノベーションの実現、高品質な製品の提供をめざします。

水戸事業所

日立電梯(中国)大石工場

*2024年9月時点、日立調べ

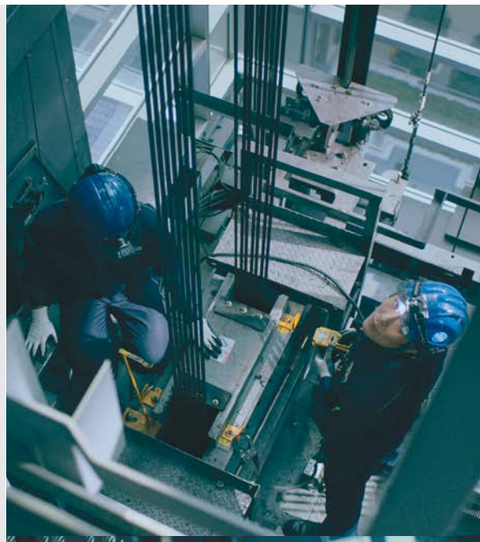
最先端のデジタル 技術と充実のサービス体制で 都市生活の「安全」「安心」「快適」を守る

ビル設備を災害やトラブルで止めないために 24時間365日、遠隔で見守り続ける。

管制センター

昇降機をはじめとするビル設備は、都市生活を支える重要な社会インフラです。私たちは、東京と大阪に配置した管制センターを中核として、日本全国約300カ所の事業拠点で、24時間365日、ビル設備の遠隔監視と保全対応を行うサービスネットワークを構築しています。管制センターでは、日本国内で保全契約をいただいている18万台以上のビル設備について、さまざまな稼働データを遠隔でリアルタイムに収集・監視し、データ分析結果を基にした予防保全を実現し、停止時間の最小化を図っています。

また、ビルオーナー・管理者向けダッシュボード「BUILLINK（ビルリンク）」やAIテクニカルサポートシステムの導入により、ビル管理業務のDX化と故障復旧の迅速化を追求しています。



「BUILLINK」の利用イメージ

ビル管理業務のDXを実現

ビルオーナー・管理者向けダッシュボード「BUILLINK（ビルリンク）」

「災害時にビル設備の状況を素早く確認したい」といったビルオーナー・管理者の皆さまの声に応えて開発したのが、ビル管理業務のサポートツール「BUILLINK」です。お手持ちのPC・スマートフォン上で、地震などの広域災害発生時の稼働状況、復旧進捗の把握など、所有・管理するビル設備の各種情報をいつでも確認できるほか、台風接近時などに冠水に備えてエレベーターを上の階に退避させるといった運行制御、エレベーター内の液晶インジケーターの情報表示の変更など、さまざまな管理業務を遠隔で行うことが可能になります。災害に対するレジリエンス向上と、ビル管理業務のDXを実現します。

迅速な故障復旧を実現

AIテクニカルサポートシステム

AIを活用してエレベーターなどのビル設備の稼働データ解析を行い、万一の故障発生時のエンジニアによる復旧作業を支援するシステムです。ビル設備に故障が発生すると、遠隔監視システムが収集した設備の制御信号データと、エンジニアが現場で確認した現場状況データ、過去の約40万件の故障対応記録のパターンマッチング解析を自動的に行い、故障原因の候補を確率が高い順に並べ、どのような手順で調査を進めていくかをフローチャートでエンジニアに提示することで迅速な復旧を実現します。

いつでも、どこへでも、迅速に

部品センター

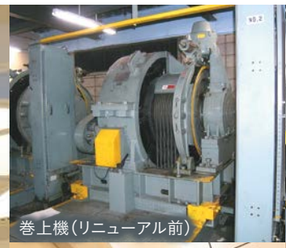
旧機種から最新部品まで2万アイテム、200万点におよぶ部品を広域災害に備えて東西2カ所の部品センターで分散ストック。緊急時には24時間体制で出荷対応を行います。
また、日々のメンテナンスデータと連携し、各サービス拠点に必要となる交換部品の配備を行います。

広域災害時対策

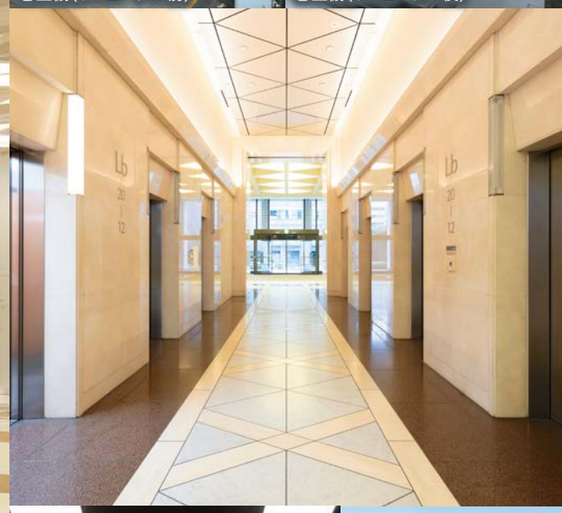
万一の大規模地震や風水害などの広域災害に備え、平時から緊急態勢の整備・構築に取り組んでいます。BCP（事業継続計画）を継続的に強化するとともに、被災状況を迅速に把握し、復旧状況を一元管理できる広域災害復旧支援システムを構築、また、具体的な災害を想定した広域災害対応訓練を定期的に実施し、BCPの有効性を確認しています。災害時のお客さまへのサービス低下を最小限にとどめ、迅速な救助・復旧対応を実現するため、全社を挙げて取り組んでいます。

末長く使い続けられるビルであるために「安全」「安心」「快適」をアップデートしていく

竣工時(1968年)


巻上機(リニューアル前)

巻上機(リニューアル後)



日本初の超高層ビルの半世紀に寄り添い先進のリニューアルで新たな価値を届ける。

霞が関ビルディング

1968年に竣工した日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」。地上147m・36階建て、日本初となるビル内の病院や郵便局、敷地内の緑地など、先進的な開発コンセプトでビルの新時代を切り拓きました。ニーズを先取りしたリニューアルを重ねることで“経年優化”が図られ、竣工から半世紀を経た現在でも約7,000人の就業者が働く先進のオフィス環境を有しています。

日立は、竣工当時に日本最速であった分速300mの高速エレベーターを納入し、快適な移動環境の実現に貢献しました。その後もメンテナンスサービスの提供と二度にわたるリニューアルを通じて、常に最新の「安全」「安心」「快適」を提供しています。霞が関ビルディングが日本における超高層ビルの象徴として存在し続けるために、これからもお客さまに寄り添い、ビルの価値向上に貢献していきます。

豊富なメニューでお客さまに応じたリニューアルを実現

ロープ式／油圧式エレベーターリニューアル

エレベーターは、長期間の使用によって、経年劣化や性能低下が進行します。近年、設置後20年以上が経過したエレベーターのリニューアル需要が高まる中、私たちは、お客さまに応じた最適なリニューアルが実現できるよう、豊富なメニューを用意しています。老朽化したエレベーターの機器を最新のものに更新することで、安全性はもちろん、快適性や利便性の向上を図ることができ、ビル全体の価値向上を実現します。今後も、さらなるメニューの拡充を図り、お客さまのニーズに応えていきます。

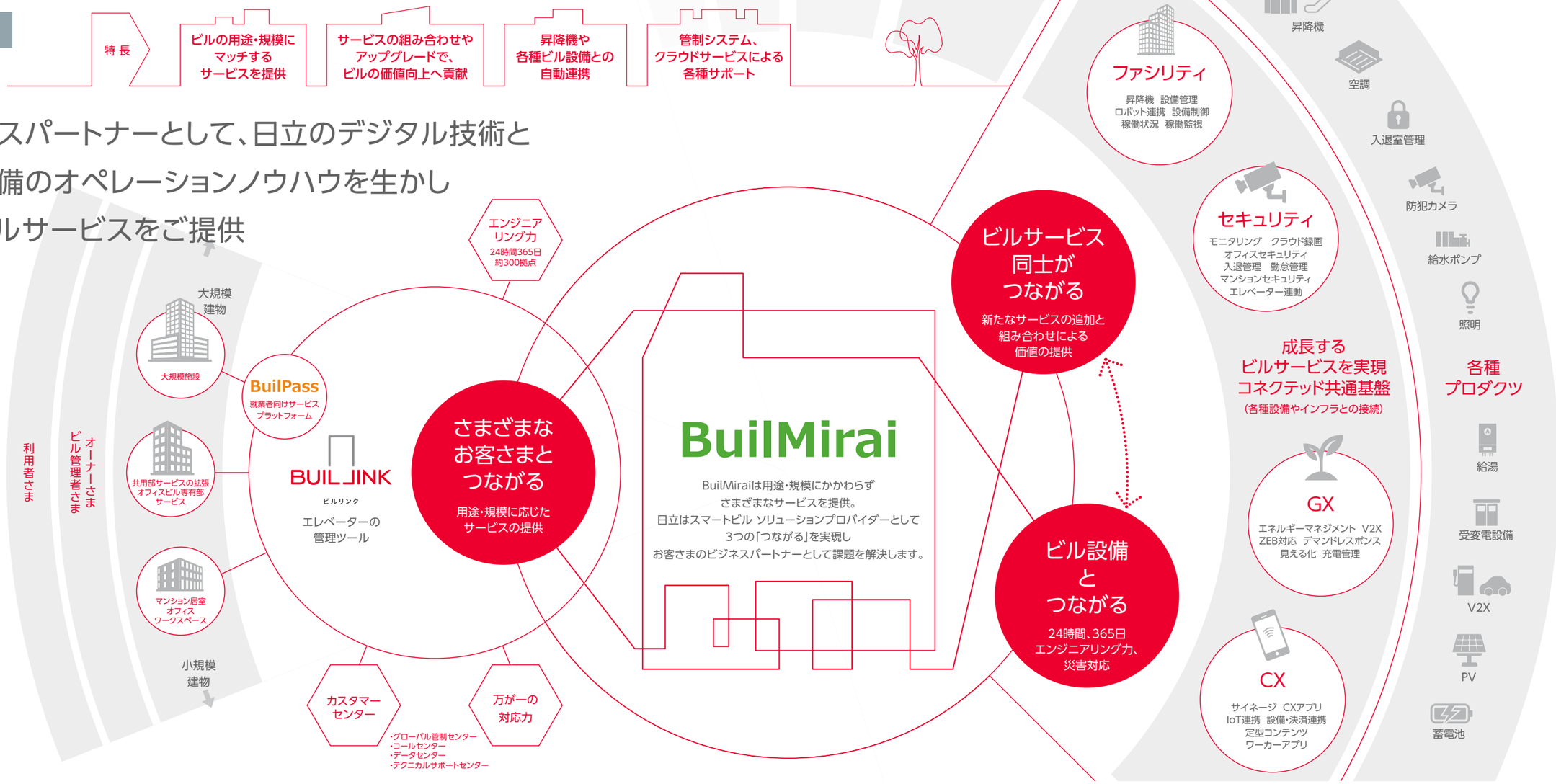
リニューアル前

リニューアル後

一人一人の声に耳を傾け、豊かな生活を提供する

「後付けエレベーター」プロジェクト（中国）

中国の都市部には、1980～90年代に建てられた古い団地が多数存在しています。約2億人が住むこの住宅は、長い年月を経て、昨今深刻な問題に直面しています。それは「エレベーターがない」ということ。居住者の多くは高齢化が進み、日々の外出さえも困難になる中、早急な対策を求める声が高まっていました。
中国政府は、2017年、古い団地へのエレベーターの設置を優遇する政策を開始。これを受けて、日立電梯(中国)は、2005年から行っていた後付けエレベーターの取り組みを強化するプロジェクトを立ち上げました。居住者一人一人の声に耳を傾け、さまざまな問題に真摯に向き合い、住民の生活改善に取り組んでいます。“真に必要なエレベーター”を追求し続けた努力が今、居住者の生活を豊かにし、一人一人の幸せにつながっています。



お客さまのビジネスパートナーとして、日立のデジタル技術と長年培ったビル設備のオペレーションノウハウを生かし最適なスマートビルサービスをご提供

「Hybrid-PCS」で災害に対するレジリエンス向上とグリーン対応を実現

電気自動車からの給電で停電時のエレベーター継続利用を可能にする「V2Xシステム」

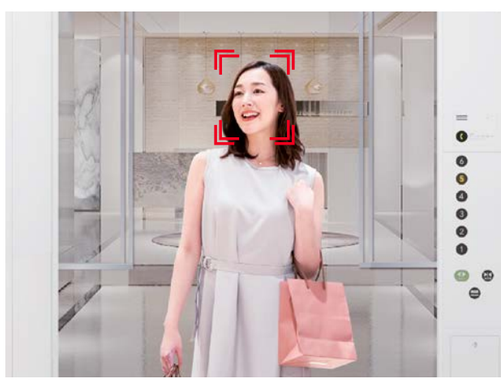
近年、広域災害に伴う大規模停電の発生と、それに伴う社会インフラの長時間の機能停止が大きな社会課題となり、エレベーターが不可欠な高層ビルなどにおいては、非常時電源を整備し、災害に対するレジリエンスを強化するニーズが高まっています。
私たちは、広域災害などによって停電となった場合にHybrid-PCS（Power Conditioning System）で電気自動車とビルをつなぎ、エレベーターなどのビル設備の電源を電気自動車からの給電に切り替え、継続利用を可能とするV2X*2システムを開発しました。

*2 V2X（Vehicle to X）：自動車とさまざまなモノとの接続や相互連携を行う技術の総称。

「顔認証」で快適なタッチレス移動を実現

エントランスとエレベーターの「ダブルセキュリティ」

新型コロナウイルスなどの感染対策の一つとして、建物内の共用設備に手を触れずに移動できる、ニューノーマルのマンションセキュリティが求められています。
日立の「ダブルセキュリティ」は、エントランスとエレベーターの2段階の入退管理を、防犯カメラや専用の認証端末の映像を活用した「顔認証」で行えるソリューションです。オートロックや、エレベーターの乗り場ボタン、行先階ボタンに触れることなく、居住階まで手ぶらでスマートに移動することが可能です。
「顔認証」のほか、ハンズフリータグや非接触キーによる「ダブルセキュリティ」もラインアップしており、お客さまのニーズに応じた認証方法で、快適なタッチレス移動を実現します。



持続可能な社会の実現をめざして、企業活動全体で貢献していきます。

環境へ

「世界で一番地球にやさしいビルビジネス」をめざした環境への取り組み

私たちは、日立グループが策定した「環境ビジョン」に従い、「脱炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」への取り組みを行っております。省エネルギーや太陽光発電の導入など生産現場での環境配慮のほか、昇降機の設計に「日立グループエコデザインマネジメント指針」を活用した環境配慮設計(エコデザイン)を適用するなど、製品やサービスへの環境配慮を実践しています。また、国際的な自然共生に関する目標「30by30*」に賛同し、水戸事業所内の自然環境保全を行っております。これからも持続可能な社会の実現に貢献するために、積極的な取り組みを行っていきます。

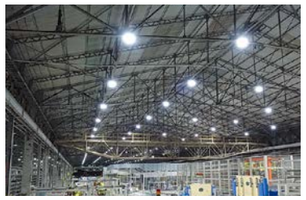
＊生物多様性条約第15回締約国会議において定められた、2030年までに自国の陸域・海域の30%以上を保全・保護しようとする国際的な目標

自然共生の取り組み

「自然共生サイト」認定の水戸事業所

水戸事業所は、環境省の「自然共生サイト」に認定され、多様で健全な生態系が維持されています。

水戸事業所（茨城）



照明設備

高効率照明器具への更新(LED化)をはじめ、棟屋上に太陽光発電設備を設置し、省エネルギー化を進めています。

亀有総合センター（東京）

太陽光発電設備

建屋の屋上緑化を積極的に推進するとともに、太陽光発電設備を設置し、エネルギーの効率利用を実践しています。

業務用車両のEV化

EVの業務用車両

CO_2排出量削減に向けて、2030年度までを目処に日本国内の業務用車両1,500台のEV(電動車)化を進めています。

社会へ

真に豊かな社会の実現へ向けて、多彩な活動を展開。

お客さまへ、製品・サービスの利用者へ、そして地域社会全体へ。私たちは、「誠実」「信義」を基本として積極的な社会貢献活動を行い、良識ある企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて尽力します。

社会問題への取り組み「エスカレーターの正しい利用方法を啓発」

近年社会問題となっているエスカレーターでの歩行をなくすことを目的に、メーカーメンテナンス会社の立場から危険性について解説するWebサイトを2024年に開設。発信した情報は、テレビ・新聞や自治体の広報紙など、各種メディアにご利用いただいています。

安全キャンペーン「エスターくん劇場」

エレベーター・エスカレーターの正しい乗り方を学ぶ「エスターくん劇場」を全国で開催。1986年の開始以来、お子さま・保護者の方を中心に約21万人にご参加いただいています。

視覚障がい者支援「盲導犬育成支援活動」

1993年から盲導犬の育成支援活動を展開。趣旨に賛同した社員と当社が毎月同額(各100円)を拠出する「マッチング・ギフト制度」により、盲導犬育成施設のほか視覚障がい者施設等への寄付活動を行っています。

自律した人財の育成をめざし、社員のキャリア形成と自己成長を促します。

グローバル人財開発センター

グローバル視点でプロフェッショナルを育成

日本、中国、タイの研修施設では、旧型から最新モデルまでの実機を用意し、実践的な技能を習得できる環境を揃えています。各種技能の習得はもとより、すべての職種・階層をカバーするビジネススキル研修により、新入社員からマネージャークラス、シニア層まですべての職種・階層でプロフェッショナル人財を育成しています。海外で活躍したい社員のために、日本のグローバル研修センターには、海外規格の昇降機実機を備えており、国内にいながら世界基準の技術を習得することが可能です。海外赴任後も、中国とタイの研修施設と一体での研修プログラムを提供しています。
また日本においては、「安全はすべてに優先する」をモットーに、社員だけではなく、サプライチェーンに関わるすべての関係者を対象に、安全研修プログラムを提供しています。日立が得意とするデジタルを活用し、VR(Virtual Reality)による体感型の教育プログラムを導入するなど、進化を続けています。

グローバル研修センター(東京)

広州研修センター(中国・広東省広州)

アジアトレーニングセンター(タイ・チョンブリ)

ビルの未来をお客さまと共に考える “顧客協創型研究施設”

日立ビルソリューション－ラボ

日立ビルソリューション－ラボは、昇降機の新設・保全・リニューアルや、空調、セキュリティなどのビル設備、さらにはスマートビル・ZEB関連をはじめとするグリーン・デジタルソリューションまで、製品・サービス・ソリューションを網羅的に紹介する顧客協創型研究施設です。ぜひ皆さまのご来場をお待ちしております。(事前予約制)

History ビルシステム事業の沿革

日立は、1920年代にエレベーターの研究開発を開始、1932年に本格的に事業化し、
常に時代を見据えて、昇降機・ビルソリューションを進化させ続けてきました。
約100年にわたる歴史を基盤として、
これからも日立は安全・安心・快適にグローバルな社会インフラづくりに取り組んでいきます。

1920s
株式会社日立製作所
亀戸工場(当時)に
おいてエレベーターの
研究開発を開始。

1932
エレベーター第1号機(貨物用)を
東京電気/川崎工場に納入。(01)

1933
乗用エレベーター第1号機を東和アパートに納入。(02)

1937
エスカレーター第1号機を大鉄百貨店に納入。(03)

1956
日立ビルディングサービス株式会社
を設立。

1961
動く歩道第1号機を客船「氷川丸」に納入。(04)

1966
日立電梯工程(香港)有限公司設立。

1967
水戸事業所に地上高90mの
エレベーター研究塔が完成。(05)

1968
日本初の超高層ビルである霞が関ビルディングに
分速300mのエレベーターを納入。(06)

1972
日立ビルディングサービス株式会社から
日立エレベータサービス株式会社に
社名変更。
日立エレベーターエンジニアリング
(シンガポール)社設立。

1974
新宿超高層ビル群に分速540mの
エレベーターを連続納入。(07)

1979
中央部品センターを開設。
(現在は東部部品センター、西部部品センター)

1981
東京研修所(現・人財開発センター)を開設。

1985
東京/大阪に管制センターを開設。

1987
日立水戸エンジニアリング株式会社設立。

1991
日立エレベータサービス株式会社から
株式会社日立ビルシステムサービスに社名変更。
タイにサイアム日立エレベーター社設立。

1995
中国に広州日立電梯有限公司設立。

1996
株式会社日立ビルシステムサービス、
日立東ビルシステム販売株式会社、
日立西ビルシステム販売株式会社の3社を合併、
社名を株式会社日立ビルシステムに変更。

1999
日立ビル施設エンジニアリング株式会社を合併。
(存続会社:株式会社日立ビルシステム)

2003
日立ビルソリューション-ラボを開設。
六本木ヒルズ森タワーにダブルデッキエレベーターを納入。(08)

2007
広州日立電梯有限公司が
日立電梯(中国)有限公司に社名変更。

2008
日立リフトインド社設立。
上海環球金融中心に世界最大級の
超高速ダブルデッキエレベーターを納入。(09)

2010
水戸事業所に高さ世界一(当時)の地上高213.5mの
エレベーター研究塔「G1 TOWER」が完成。(10)
シンガポールに日立エレベーターアジア社設立。
日立電梯(上海)有限公司に
地上高172mのエレベーター研究塔が完成。(11)

2011
日立エレベーターフィリピン社設立。

2012
東京スカイツリー® に高速・大容量エレベーターを納入。(12)

2014
株式会社日立製作所より株式会社日立ビルシステムに
国内昇降機事業を移管。
人財開発センターにグローバル研修センターを開設。

2015
株式会社エレテクノス、株式会社ビルテクノスを合併し、
株式会社日立ビルシステムエンジニアリングを設立。
日立エレベーターミャンマー社設立。

2016
日立エレベーターカンボジア社設立。
日立エレベーターベトナム社設立。

2017
タイにアジアトレーニングセンターを開設。

2018
日立エレベーターラオス社設立。

2019
広州周大福金融中心に世界最高速*となる
分速1,260mの超高速エレベーターを納入。(13)

2020
日立電梯(中国)有限公司に世界トップクラス*の
地上高273.8mのエレベーター試験塔「H1 TOWER」が完成。(14)
日立水戸エンジニアリング株式会社を合併。
(存続会社:株式会社日立ビルシステム)
株式会社日立製作所が日立永大電梯股份有限公司を
連結子会社化。

2022
株式会社日立製作所が永大機電工業股份有限公司を
完全子会社化し、日立永大電梯股份有限公司に社名変更。

2023
虎ノ門ヒルズ ステーションタワーに
積載質量8,000kgの
超大容量エレベーターを納入。(15)

*2024年9月時点、日立調べ

01

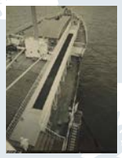
貨物用エレベーター
第1号機

02

乗用エレベーター
第1号機

03

エスカレーター
第1号機

04

動く歩道
第1号機

05

水戸事業所
エレベーター研究塔

06

霞が関ビルディング

07

新宿超高層ビル群

08

六本木ヒルズ
森タワー

09

上海環球金融中心

10

G1 TOWER

11

日立電梯(上海)
エレベーター研究塔

12

東京スカイツリー®

13

広州周大福金融中心

14

H1 TOWER

15

虎ノ門ヒルズ
ステーションタワー

Network 国内&海外主要グループ会社・代理店

日本

- ■ 株式会社日立製作所 ビルシステムビジネスユニット
- ■ 株式会社日立ビルシステム
- 株式会社日立ビルシステムエンジニアリング
- 株式会社日立ビルシステムビジネスサポート
- 株式会社沖縄日立
- 株式会社エレケア

東アジア

- ■ 日立電梯(中国)有限公司<中国 広州>
- ■ 日立電梯(広州)自動扶梯有限公司<中国 広州>
- ■ 日立電梯電機(広州)有限公司<中国 広州>
- ■ 日立楼宇技術(広州)有限公司<中国 広州>
- ■ 日立電梯(上海)有限公司<中国 上海>
- ■ 永大電梯設備(中国)有限公司<中国 上海>
- ■ 日立電梯(天津)有限公司<中国 天津>
- ■ 日立電梯(成都)有限公司<中国 成都>
- 日立電梯工程(香港)有限公司<香港 九龍>
- ■ 日立永大電梯股份有限公司<台湾 台北>

東南アジア

- Hitachi Elevator (Cambodia) Co., Ltd. <Cambodia, Phnom Penh>
- PT. Hitachi Asia Indonesia <Indonesia, Jakarta>
- Hitachi Elevator Laos Co., Ltd. <Laos, Vientiane>
- Hitachi Elevator Engineering (Malaysia) Sdn. Bhd. <Malaysia, Kuala Lumpur>
- Hitachi Elevator (Myanmar) Co., Ltd. <Myanmar, Yangon>
- Hitachi Elevator Philippines Corporation <Philippines, Manila>
- Hitachi Elevator Asia Pte. Ltd. <Singapore>
- Hitachi Elevator (Thailand) Co., Ltd. <Thailand, Bangkok>
- ■ Siam-Hitachi Elevator Co., Ltd. <Thailand, Chonburi>
- Hitachi Elevator Vietnam Co., Ltd. <Vietnam, Ho Chi Minh City>

南アジア

- Hitachi Lift India Pvt. Ltd. <India, New Delhi>
- Lanka Elevator Engineering (Pvt) Ltd. <Sri Lanka, Rajagiriya>

中東

- Ahmadiah International Elevator Co. W.W.L. <Kuwait, Kuwait City>
- Universal Engineering Services L.L.C. <Oman, Muscat>
- Petrobuild International Elevators Co. W.L.L. <Qatar, Doha>
- Creative Performance Co. for Elevators. <Saudi Arabia, Jeddah>
- Al-Futtaim Engineering L.L.C. <U.A.E., Dubai>

オセアニア

- Hitachi Australia Pty. Ltd.<Australia, Sydney>

■ 製造拠点
■ 日立グループ会社
■ 関連会社・代理店
<>内は所在地を表す

Company Profile 会社概要

- **名称** 株式会社日立ビルシステム
- **本社所在地** 〒101-8941 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地(ワテラスタワー) 電話03-3295-1211(大代表)
  〒120-0002 東京都足立区中川四丁目16番29号(亀有総合センター)
  〒312-8506 茨城県ひたちなか市市毛1070番地(水戸事業所)
- **設立** 1956年10月1日
- **資本金** 51億509万1千円(全額 株式会社日立製作所出資)
- **代表者** 代表取締役 取締役社長 網谷 憲晴
- **売上高** 2,802億円(2023年度)
- **従業員** 約8,600名(2024年3月時点)

- **事業内容**

1.エレベーター、エスカレーター、駐車場設備、冷凍空調装置、電気設備、自動ドア、その他ビル設備に必要な機器の製造、販売、据付、保守、改造修理、更新及び設計 2.各種ビル設備の監視、制御及びビル管理 3.土木及び建築工事業 4.冷凍空調装置並びにそれらの運転制御盤、遠隔監視装置、冷媒回収装置の製造 5.建築物の設計及び監理 6.ビル設備機器、防犯・防災機器及び駐車場設備の賃貸並びにリース 7.不動産賃貸業 8.データベース、ダイレクトメール、テレマーケティング、インターネットを構成要素とするダイレクトマーケティング手法を用いたセールスプロモーションの企画・立案・実践代行及び各種市場調査 9.警備業 10.工業所有権及びノウハウの実施許諾 11.前各号に関連又は附帯する一切の事業

日立ビルシステムブランドチャンネル

株式会社日立ビルシステム

〒101-8941 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地（ワテラスタワー）
電話　03-3295-1211（大代表）URL:https//www.hbs.co.jp

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C020887

VEGETABLE OIL INK

BC-001F　2024-09